

中国大使を囲む会 ～江戸蕎麦は日中架橋の立役者～ 江戸ソバリエ北京プロジェクト代表 ほしひかる



昨年の春、われわれ江戸ソバリエ北京プロジェクトは北京の蕎麦店「蕎麦人」でお世話になった。

「蕎麦人」は日本と中国で和食・蕎麦店を展開しているが、社長の坂下さんは日中友好継承発展会の理事長もされている。

その日中友好継承発展会(代表鳩山友紀夫、理事長坂下重信)というのは、日中平和条約締結 40 周年に当たる 2018 年に、これまで日中交流に貢献された先達の精神を受け継ぎ、将来に向かって発展させてゆく枠組として設立された団体である。

この継承発展会で「中国大使を囲む会」を開催するので、そこで手打ち蕎麦を振舞ってほしいと依頼された。

さっそくながら、江戸ソバリエ北京プロジェクトのメンバーの中で都合のつく人たちに呼びかけたところ、平林知人・高橋正・北川育子・佐藤悦子・木崎利江子の各氏が駆け付けてくれた。

開催日の平成 31 年 2 月 23 日、会場である「蕎麦人 弁慶・神保町店」(千代田区)には、中華人民共和国駐日本国特命全権大使の程永華様と御夫人、元総理である鳩山友紀夫氏と御夫人、ほか経済人など 15 名が参集した。



「囲む会」は坂下理事長の司会で進み、大使と参加者との懇談も盛り上がった。私も合間を見て主賓の大使御夫妻にご挨拶したところ、大使夫人に「貴方の顔はテレビで見たことがあります」と言われて、驚いた。

途中、海江田万里議員がわれわれソバリエの所へやって来られ「議員会館にいるとき、僕の昼はほとんどお蕎麦だよ」と仰った。どうやら海江田議員はお蕎麦が大好きようだ。

さて、晚餐の中心は「和の膳」であったが、その中にぜひ手打ち蕎麦を加えたいという坂下さんの意向で、われわれ江戸ソバリエがお手伝いをしているわけであるが、だんだんと膳も片付いて、いよいよお蕎麦の出番になった。

そこでさらに蕎麦に光を当てようということで、大使夫人と鳩山夫人に蕎麦の切り作業をやって頂くことになった。

さっそく、平林さんのリードでお二方に庖丁を握って切って頂き、それを当方が用意した蕎麦と二色盛にして供したところ大変喜んでおられた。

江戸ソバリエ協会では、常々「日本の蕎麦は、中国生まれの江戸育ちである」と申上げている。そんな日本蕎麦は、今宵も、これからも、日中の架橋として最も適した役者であると思う。

